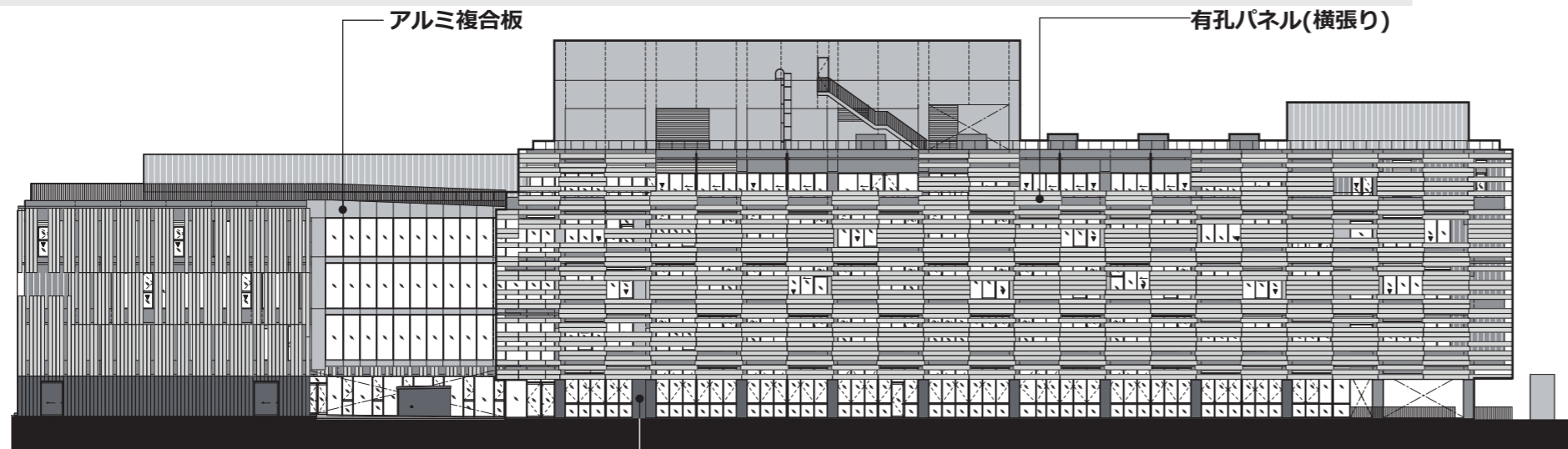


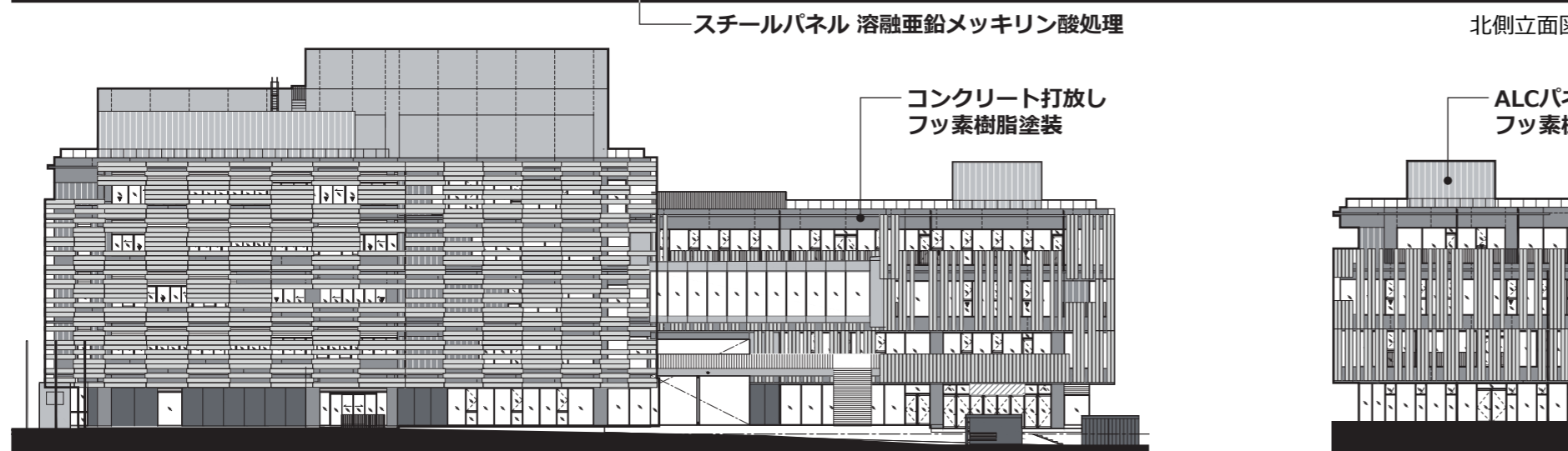
立面計画

外観デザインの考え方

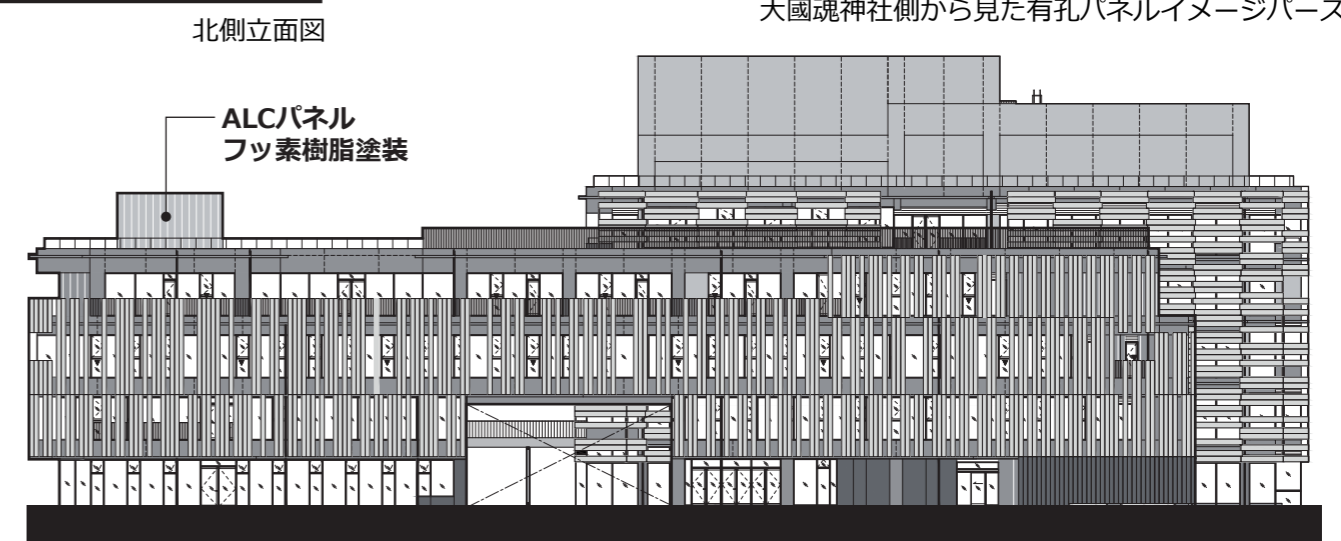
- ・ 建物を低層に抑え、外壁面を分節することで周辺のまち並みのスケールと調和した計画とします。
- ・ 建物の随所に軒下空間や通り抜けのピロティを設けて、市民の憩いの場や生活動線をつくります。
- ・ 日射や視線を制御する役割を担う有孔パネルで建物全体を包みます。「おもや」を横張りとするのに対し、「はなれ」を縦張りとするすることで、「おもや」と「はなれ」の区別をより明確にするるとともに、壁面の長いはなれのボリュームを分節する効果を生みます。



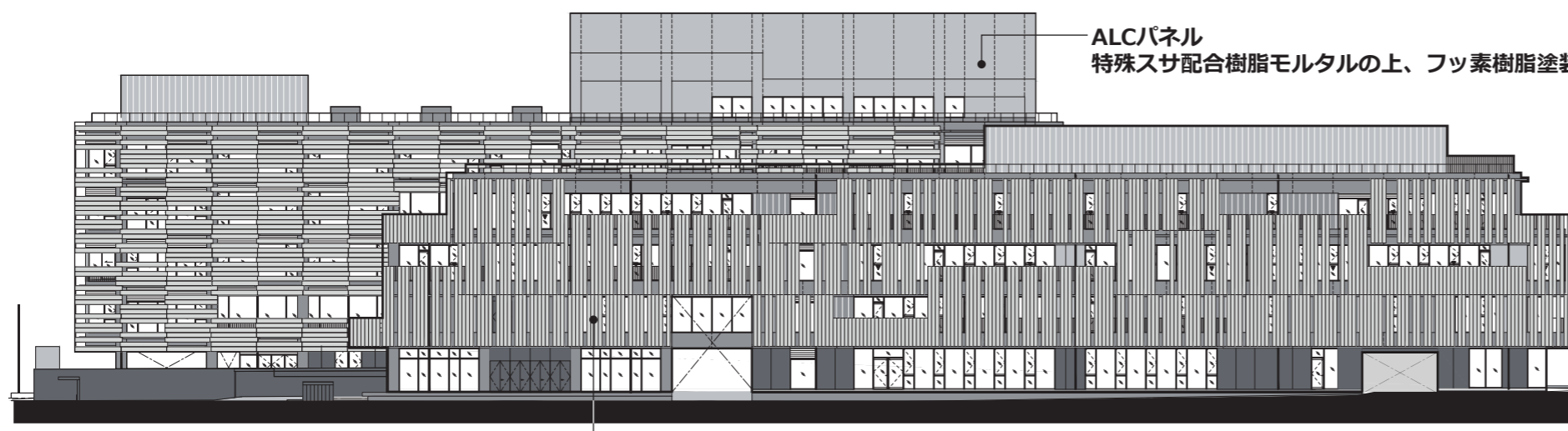
大國魂神社側から見た有孔パネルイメージパース



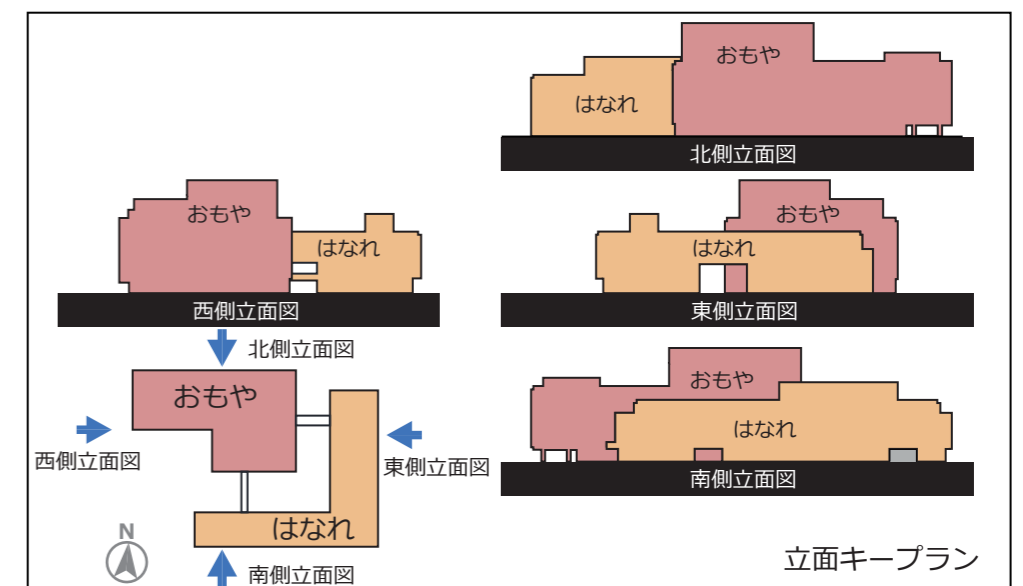
西側立面図



東側立面図



南側立面図

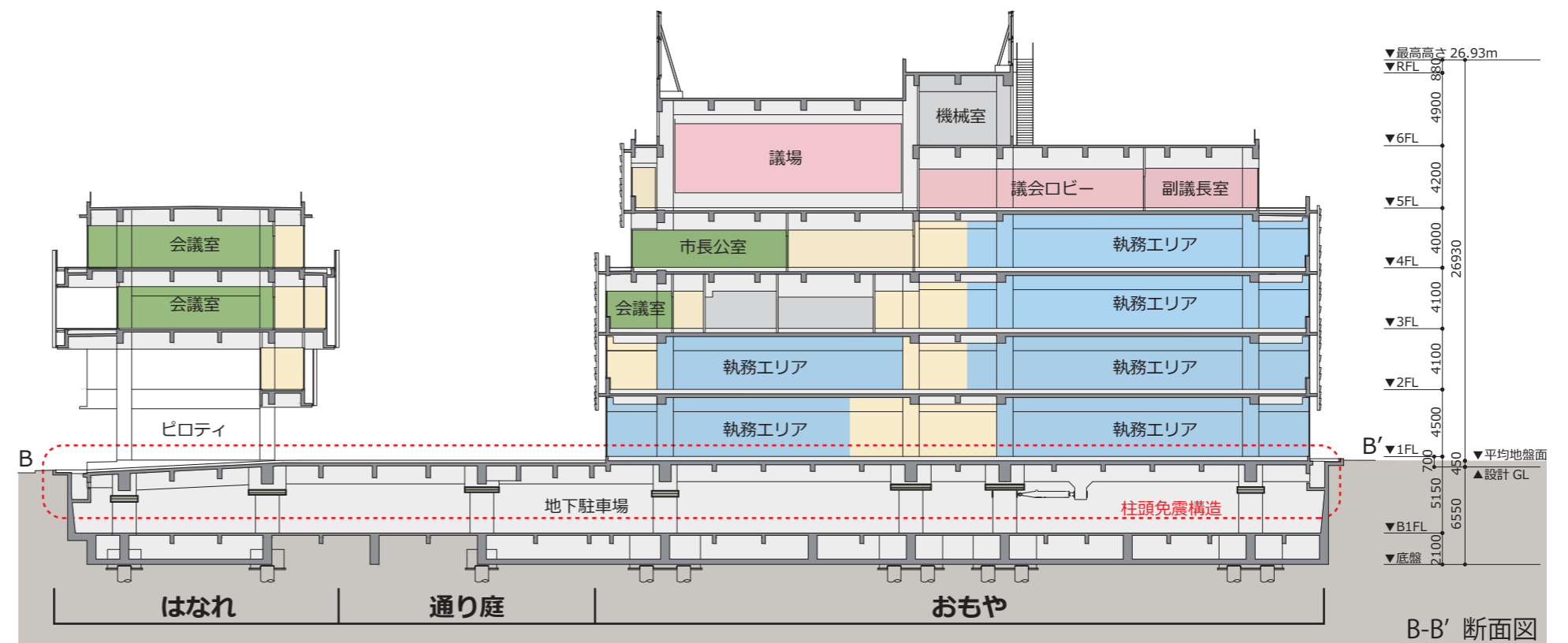
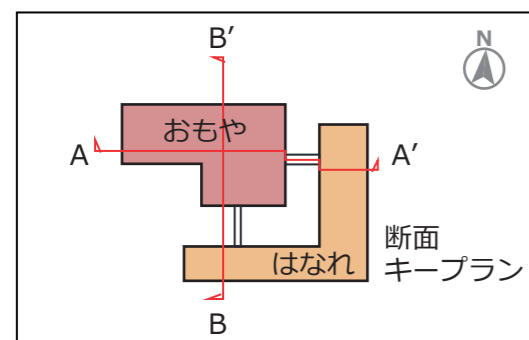
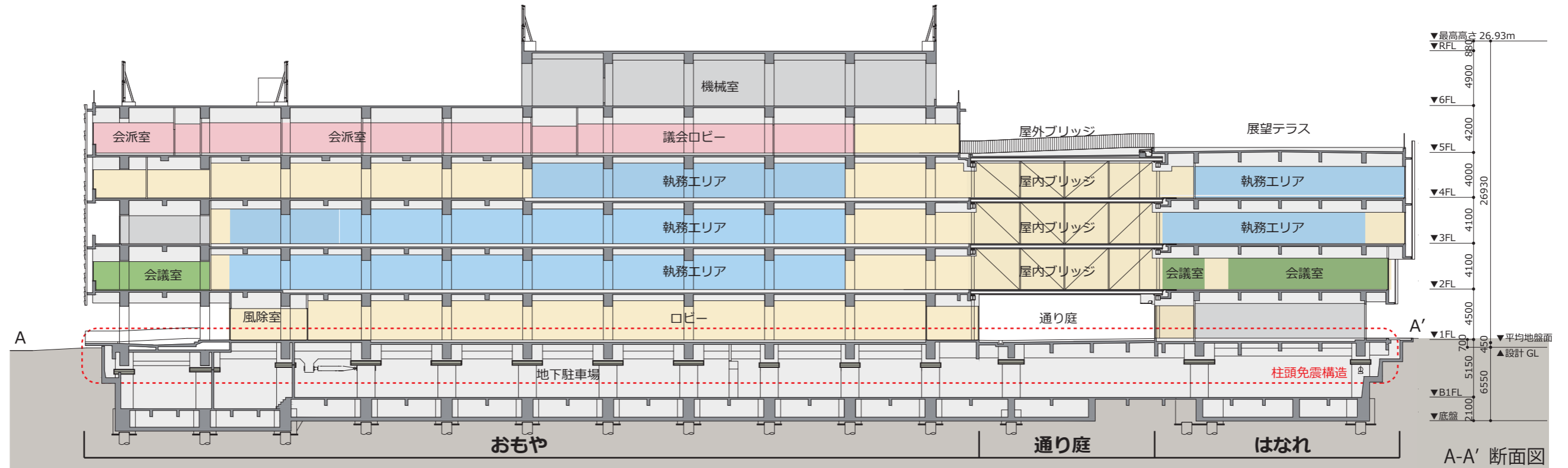


断面計画

断面計画の考え方

- ・地下駐車場の柱の上部に、柱頭免震構造を採用し、大規模地震の際にも庁舎機能を維持できる計画とします。
- ・大空間の「おもや」執務エリアにおいては、天井材を設けず、ダクトの不要な床吹き出し空調システムの採用により、階高を抑えた計画とします。

□凡例	
■ 執務エリア	■ 共用スペースエリア
■ 会議室エリア	■ 議会エリア
■ 市民利便スペースエリア	■ その他諸室エリア



植栽計画

植栽計画の考え方

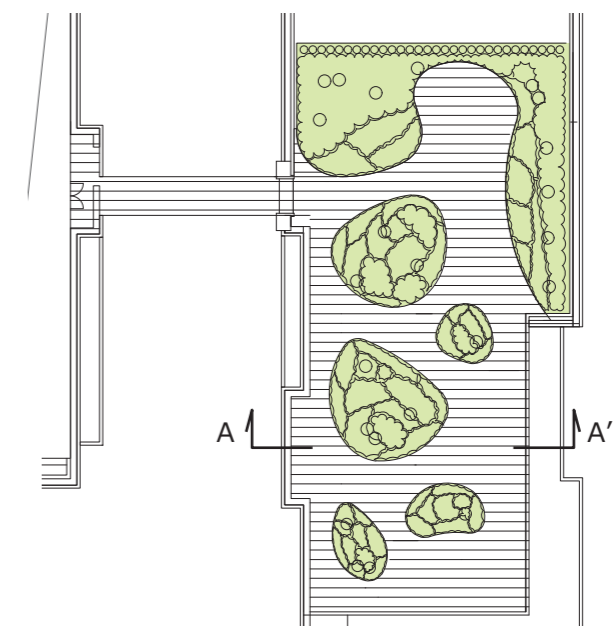
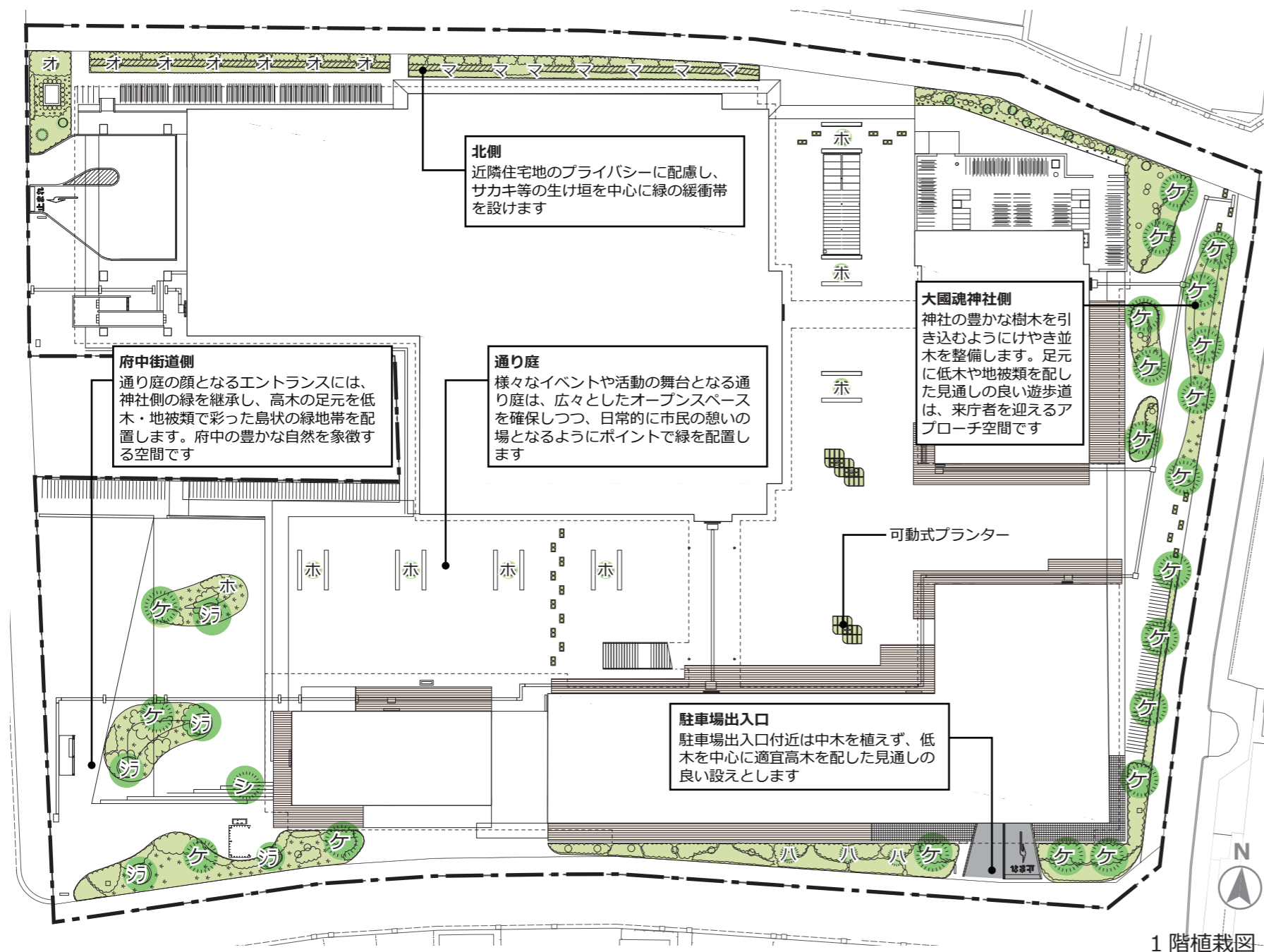
【地上部】

大國魂神社のケヤキ、街路樹のサツキなど、周辺の既存樹種を中心に計画し、周辺環境と調和する緑を目指します。東側は、大國魂神社からの連続性と見通しを意識し、ムサシノケヤキの並木としながら、中木・低木・地被類で彩りを加えます。「通り庭」には、枝葉の広がらないメンテナンスも容易なハウキモモをポイントで配置します。また、「通り庭」の植栽は、一部可動式のプランターとし、市民が日常的に緑に親しむ場となると同時に様々なイベントにも対応できる設えとします。



【はなれ屋上】

乾燥に強く、虫や鳥がつきにくく管理のしやすいハーブを中心とした庭園とします。島状の植栽帯は、適度なプライバシーを確保し、市民の憩いの場となります。



防災計画

BCP計画の考え方 — 災害時に庁舎機能を確保し、BCP(事業継続計画)を支えるために採用する手法 —

1. 防災危機管理課と連携した災害対策本部の設置

- 「はなれ」4階に、防災危機管理課を設置します。また、隣接して災害対策本部・準災害対策本部を計画し、円滑な支援対応を可能とします。
- 災害対策本部と同階の「おもや」4階に市長室・副市長室を計画するなど、災害時には速やかに災害対策本部を設置することが可能なゾーニングとし、災害対策本部室には映像設備等の必要な機器類を整備します。

2. 必要な防災設備と自立性を備えたライフラインの確保

- 上水については、ペットボトルの備蓄による飲料水確保に加え、受水槽内の残量も活用できるよう緊急遮断弁と水栓を設置する計画とします。
- 雑用水については、雑用水槽の残量に加え、井戸からも供給可能な計画とします。
- 下水については、平常時は湧水槽とし、災害時には汚水貯留槽に切り替え、容量を確保する計画とします。
- 太陽光発電については、「はなれ」4階の災害対策本部の一部のコンセントに供給可能な計画とします。

3. 救護活動支援スペースの確保

- 庁舎内部については、「おもや」1階ロビーを市民が一時的に待機できる場所として想定します。また、「はなれ」1階の多目的スペースを応急処置の場所に転換利用可能な計画とします。さらに、地下1階は災害活動支援エリアとして計画します。
- 庁舎外部については、「通り庭」に救援物資等の仮置スペースを計画します。「はなれ」のピロティ部分は、屋根付きの災害活動支援エリアとして計画します。

■ 災害想定

◇ 地震時

時間経過	想定在館人員	災害拠点として果たすべき機能	新庁舎に整備する設備・システム										
0日 震災発生時	1000人 ・職員 900人 ・来庁者100人	・安全確保 ・無被害	免震構造 免震構造	高耐震化 建築基準法×1.5	無天井化 (おもやの一部)	家具転倒防止対策 低い家具,家具固定	明確な避難動線計画	自家用発電機 72時間運転 UPS設置 移動電源車対応	電源2系統受電 (本線・予備電源)	通信引込み 2ルート化 防災無線 (通信の多重化)			
0 ~ 1日	1000人	・災害対策本部設置 ・情報収集 発信 ・インフラ確保	災害対策本部機能 非常電源, 情報端末 放送設備	災害備蓄倉庫 食料, 飲料水 テント, 毛布	飲料水確保 受水槽 ペットボトル	便所確保 井水利用 汚水貯留槽	電源確保 非常発電機 燃料タンク 太陽光発電	照明確保 非常電源照明 自然採光	室内環境 自然通風 非常電源	情報発信 デジタル掲示板 情報共有掲示板 放送設備	弱者対応 スペースの確保 高齢者, 障害者 負傷者	※7日分備蓄	
2 ~ 3日	900人	・各避難場所 関係機関 ネットワーク構築 ・安否情報発信 ・炊き出し支援 ・重要業務開始 ・応援者受入											泊り込み職員 対応 仮眠室, シャワー
4 ~ 7日	900人 (帰宅可能な職員は夜間帰宅)	・物資受入れ 配分 ・交通復旧開始 ・インフラ復旧開始 ・ボランティア受入れ											燃料補給 燃料補給 燃料補給 燃料補給 受入先への移送
8 ~ 3 ~ 1日 1ヵ月	900人 (帰宅可能な職員は夜間帰宅)	・通常業務開始 ・帰宅支援											給水車 水道復旧 汚水回収 下水道復旧 送電復旧 送電復旧 送電復旧 送電復旧

◇ 水害時 ※集中豪雨

- 計画地は、ハザードマップで定める浸水エリアに該当しない地域です。集中豪雨における水害を想定して計画します。
- 集中豪雨対策として、『府中市地域まちづくり条例に関わる排水設備』の基準以上を設けた計画とします。
- 重要設備の水没対策のため地上部分の6階に機械室を設置し、集中豪雨時にも庁舎機能が安全に機能する計画とします。

防災計画

■ 防災計画 ゾーニング図

○ 災害発生後、継続した災害活動が可能な庁舎

【インフラの確保】

- ・非常用発電機、給排水などの設備は在館者3日分の容量で計画します。
(想定在館者：職員 900人 + 市民 100人)

【活動継続の計画】

- ・災害活動に必要とされる庁舎の機能を考え、役割に応じたエリア設定を計画します。各エリアに要する空調、給排水、照明、コンセント及びエレベーター1台が、非常用発電機によって稼働します。

【救援支援活動の計画】

- ・1階の利用しやすい階に、ロビー・多目的スペースを計画し、状況に応じた支援活動が可能な計画とします。

○ 外部からの支援物資の受入先としての防災機能

【防災広場の計画】

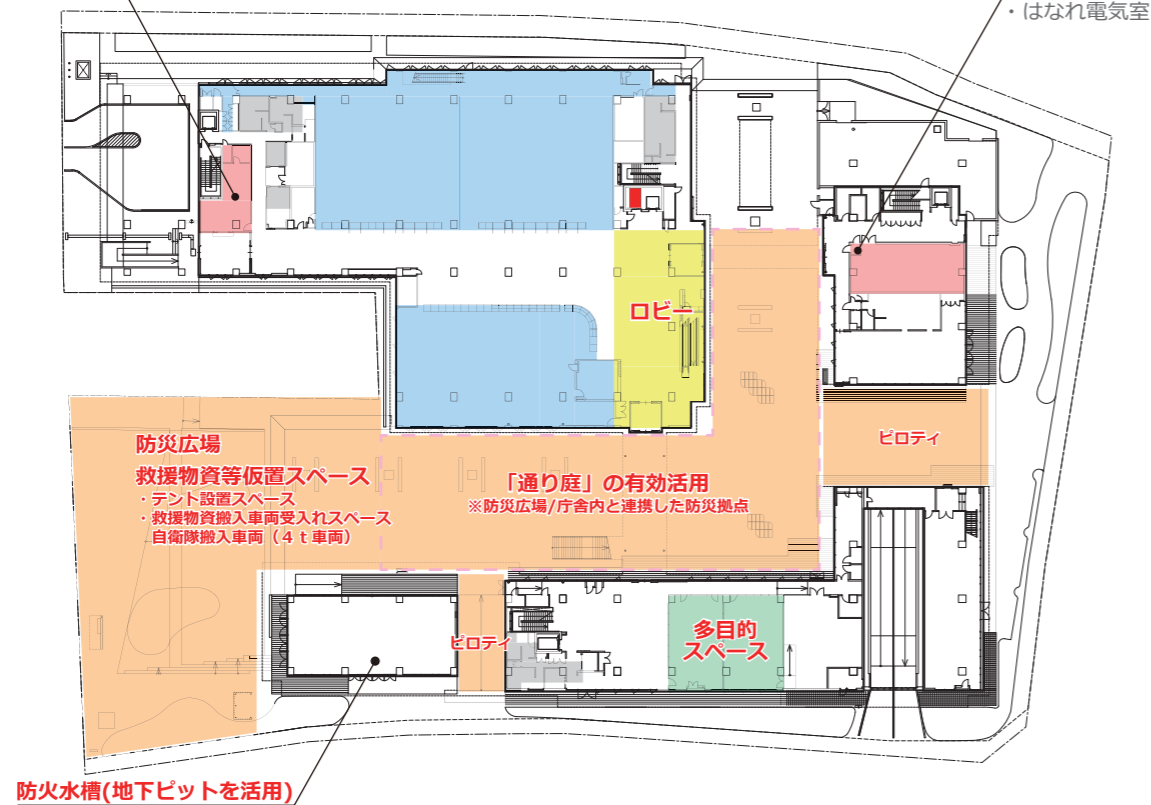
- ・西側の府中街道に面した建物の外部空間に防災広場を計画し、救援物資等の仮置スペースを設け、救援物資の搬入スペースに活用できる計画とします。



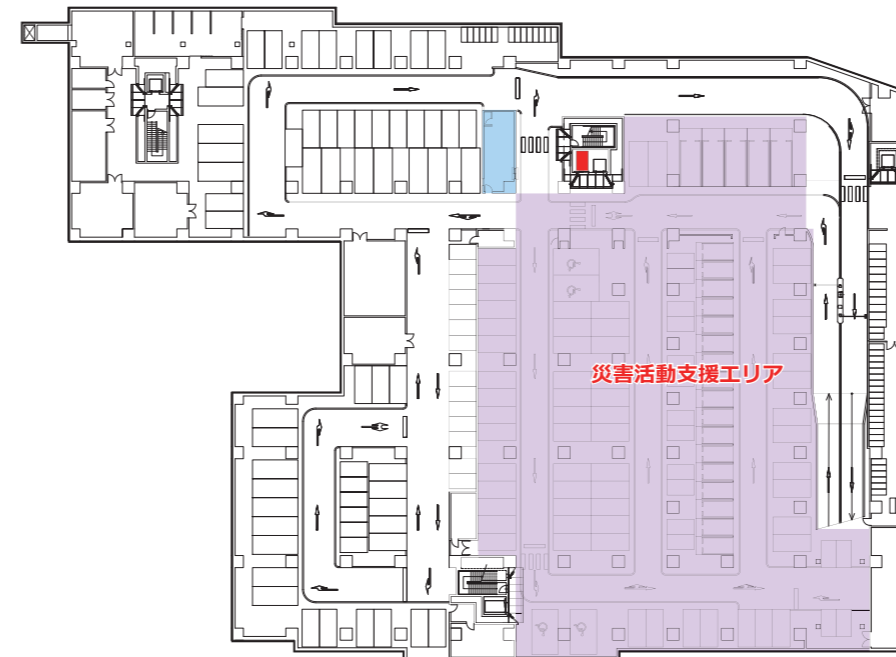
救援物資搬入時イメージ

防災センター
・庁舎管理室

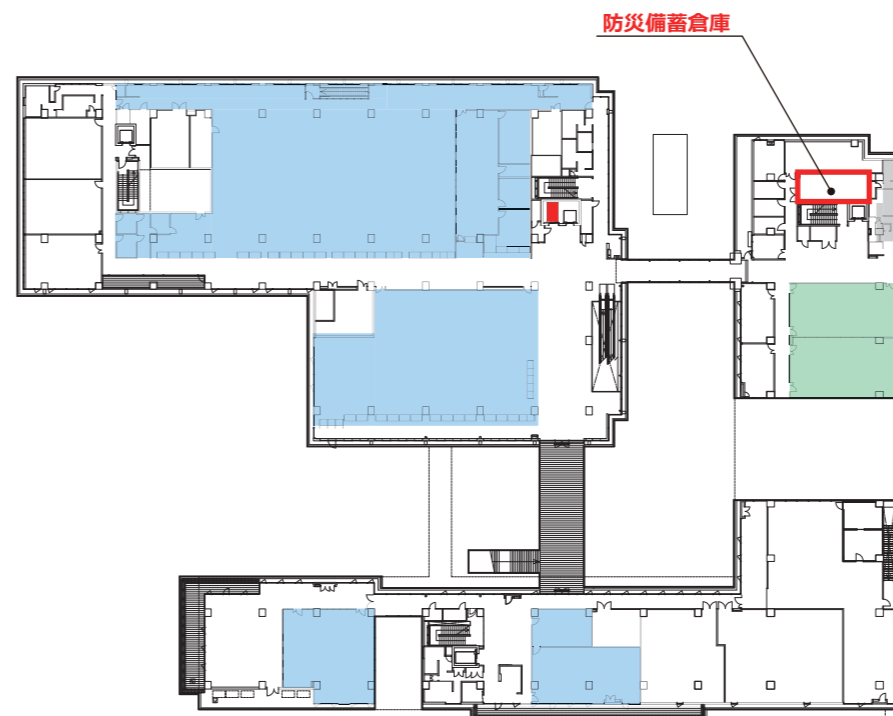
電気室関係
・はなれ電気室



1階



地下1階



2階

飲料水 (1人当たり1日3リットル)
1週間分の場合
1,000人 × 3リットル × 7日 = 21,000リットル

食料 (1日3食)
1週間分の場合
1日目 クラッカー 3食 × 1,000人 = 3,000食
2日目 アルファ米 18食 × 1,000人 = 18,000食
以降

合計 クラッカー 3,000食、アルファ米 18,000食

毛布または寝袋
一人あたり1枚 = 1,000枚

■ 災害対策拠点エリア

- ・災害対策本部室と隣接する会議室などを中心に、市長室・副市長室も含め、災害対策の拠点として機能します。
- ・サーバー室、防災センター、電話交換室、電気室等の災害対策活動を支えるインフラバックアップを計画します。

■ 災害活動支援エリア

- ・災害対策本部室に近接して、仮眠室などに転用が可能なスペースを確保します。
- ・地下1階駐車場を屋内で多目的に使える災害活動支援スペースとして計画し、支援活動が十分に行えるスペースを確保します。
- ・「はなれ」1階の多目的スペースは、弱者や負傷者に対して一時的な応急処置を行うスペースとして転用が可能な計画とします。

■ 行政支援エリア

- ・執務エリアの一部を業務継続が可能な行政支援エリアとして計画します。
- ・電気エネルギーを利用できるエリアを限定し、消費を抑える効率的な計画とします。

■ 一般待機エリア

- ・「おもや」1階のロビーは、災害時に在館中の市民が一時的に待機する場所として利用することを想定します。

■ 屋外支援エリア

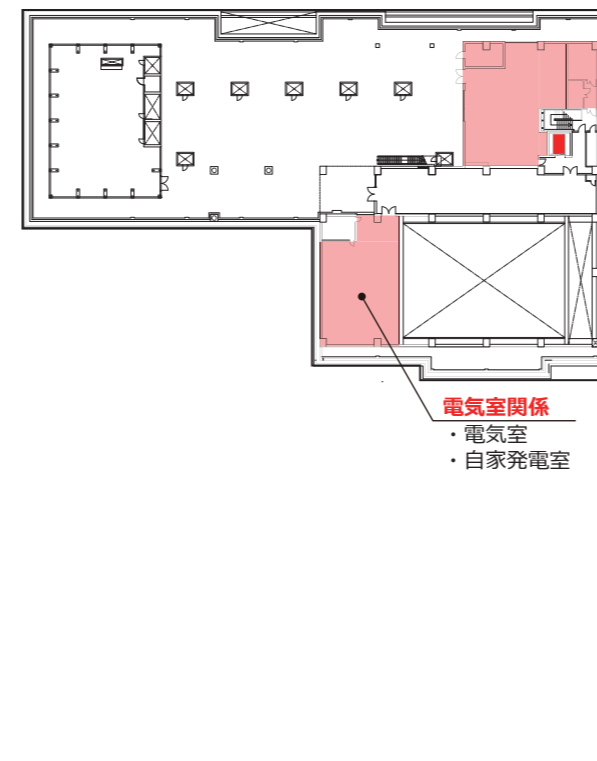
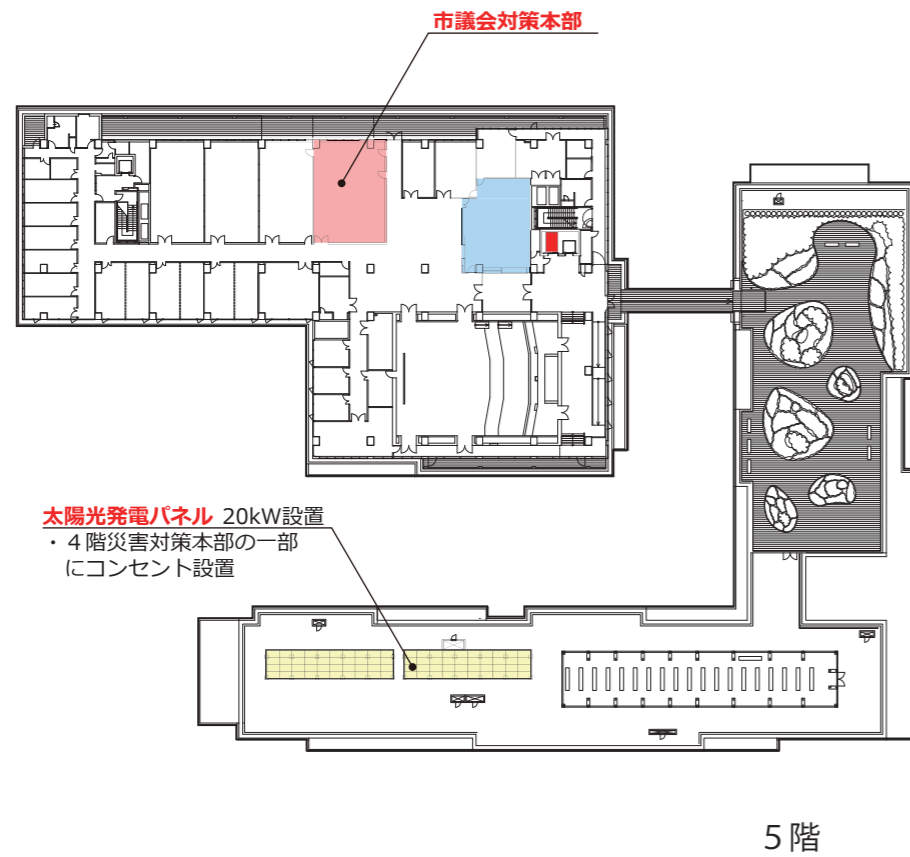
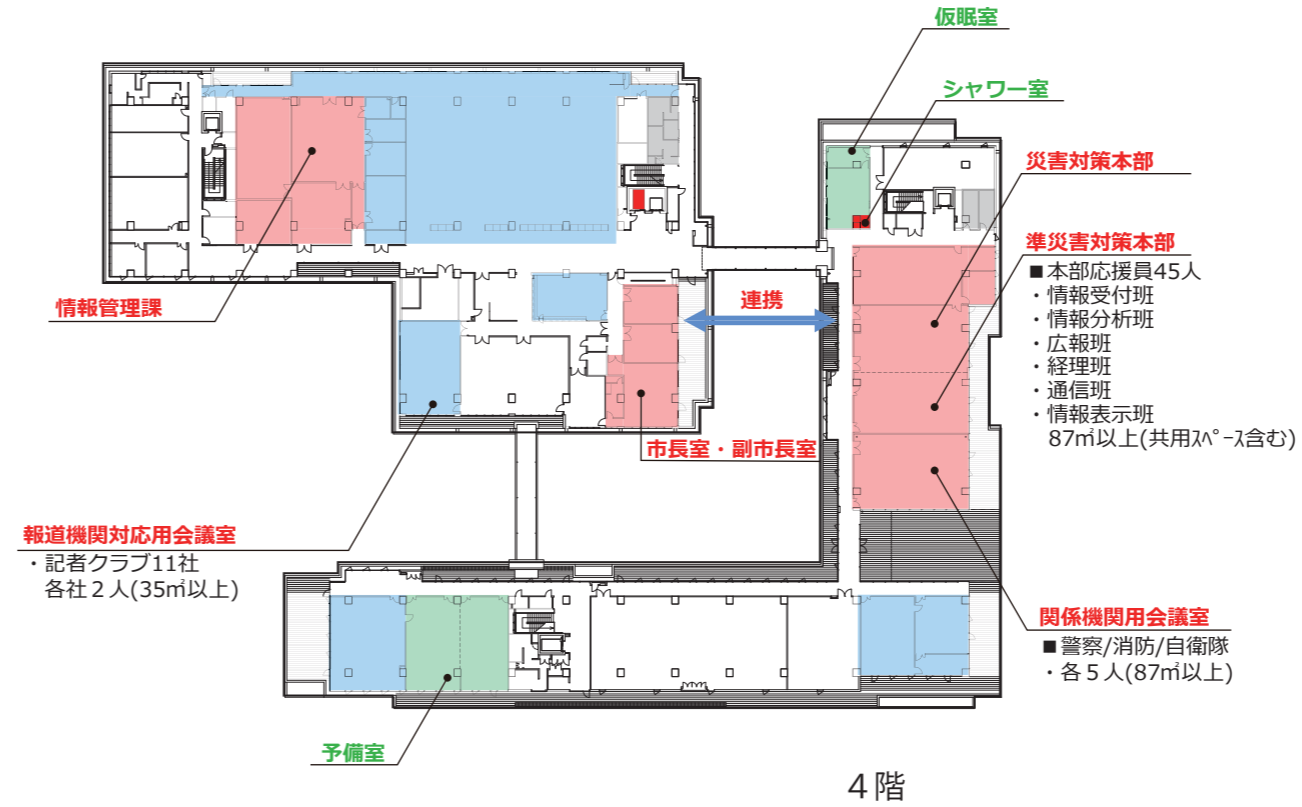
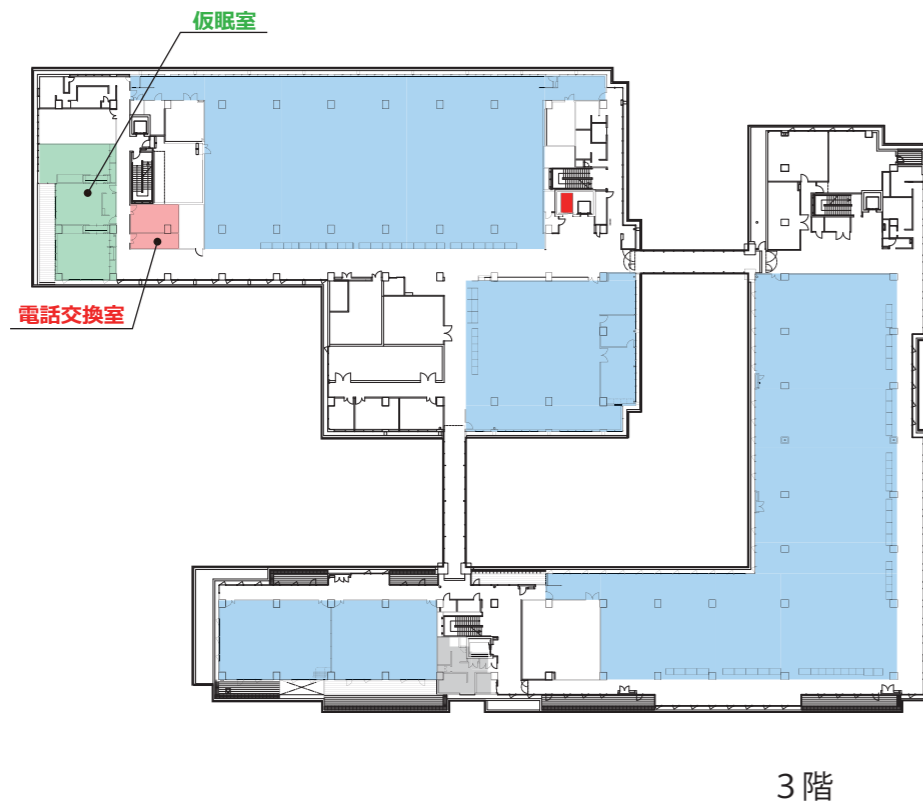
- ・防災広場とピロティ部分は、災害時に救援物資等の仮置スペースとして活用し、「通り庭」も支援スペースとして有効活用します。

凡例	空調	換気	給湯	給水	ガス	照明	コンセント
災害対策拠点エリア	○	○	—	—	—	50%	100%
災害活動支援エリア	○	○	※シャワールーム	※シャワールーム	※シャワールーム	30%	30%
(地下駐車場) エリア	—	○	—	—	—	30%	一部
行政支援エリア	—	—	—	—	—	30%	30%
一般待機エリア	—	—	—	—	—	30%	一部
エレベーターエリア	—	—	—	—	—	100%	—
トイレエリア	—	○	—	○	—	100%	自動水洗のみ
屋外支援エリア	—	—	—	—	—	—	—

備考
 ■ トイレエリアについては、洗浄便座、暖房便座は含んでいません。
 ■ 「府中市事業継続計画」における『非常時における優先通常業務』がB以上の執務空間とします。
 ※シャワールーム 給水のみ確保し、給湯については、電気の復旧又は被害がない場合を想定します。

防災計画

■ 防災計画 ゾーニング図



凡例

- 災害対策拠点エリア
- 災害活動支援エリア
- 行政支援エリア
- 一般待機エリア
- 屋外支援エリア

凡例	空調	換気	給湯	給水	ガス	照明	コンセント
災害対策拠点エリア	○	○	—	—	—	50%	100%
災害活動支援エリア	○	○	※ｼﾞｬｰﾙ室	※ｼﾞｬｰﾙ室	※ｼﾞｬｰﾙ室	30%	30%
(地下駐車場) エリア	—	○	—	—	—	30%	一部
行政支援エリア	—	—	—	—	—	30%	30%
一般待機エリア	—	—	—	—	—	30%	一部
エレベーターエリア	—	—	—	—	—	100%	—
トイレエリア	—	○	—	○	—	100%	自動水洗ｼﾞｬｰﾙのみ
屋外支援エリア	—	—	—	—	—	—	—

備考 ■ トイレエリアについては、洗浄便座、暖房便座は含んでいません。
 ■ 「府中市事業継続計画」における「非常時における優先通常業務」がB以上の執務空間とします。
 ※ｼﾞｬｰﾙ室 給水のみ確保し、給湯については電気の復旧又は、被害がない場合を想定します。

環境計画

環境計画の考え方

周辺環境と調和し、環境負荷低減に配慮した庁舎とするとともに、長期に渡って維持管理しやすく更新性に優れた計画とします。また、CASBEE^{※1}におけるSランクを取得できる計画とします。

□ライフサイクルコストの低減

ポイント フレキシビリティ、メンテナンス性

□再生可能エネルギーの利用

ポイント 太陽光発電、雨水・井水の利用

□自然エネルギーの効率的な活用

ポイント 自然通風、自然光のコントロール、緑化

□高効率機器の採用

ポイント LED照明、空調負荷の低減

□ライフサイクルコストの低減

- ・スケルトンインフィル^{※2}型の施設構成により、組織の変更に対応するフレキシビリティのある計画とします。
- ・メンテナンス性と耐久性に優れた素材や工法を用いて計画し、将来を見据えた機能更新に対応しやすい計画とします。
- ・BEMS^{※3}の採用によりエネルギーの最適化を行います。また、エネルギー消費の傾向を把握することが可能となるため、機器運転の改善点を見つけて運用面での省エネルギー化を行うことができます。

□再生可能エネルギーの利用

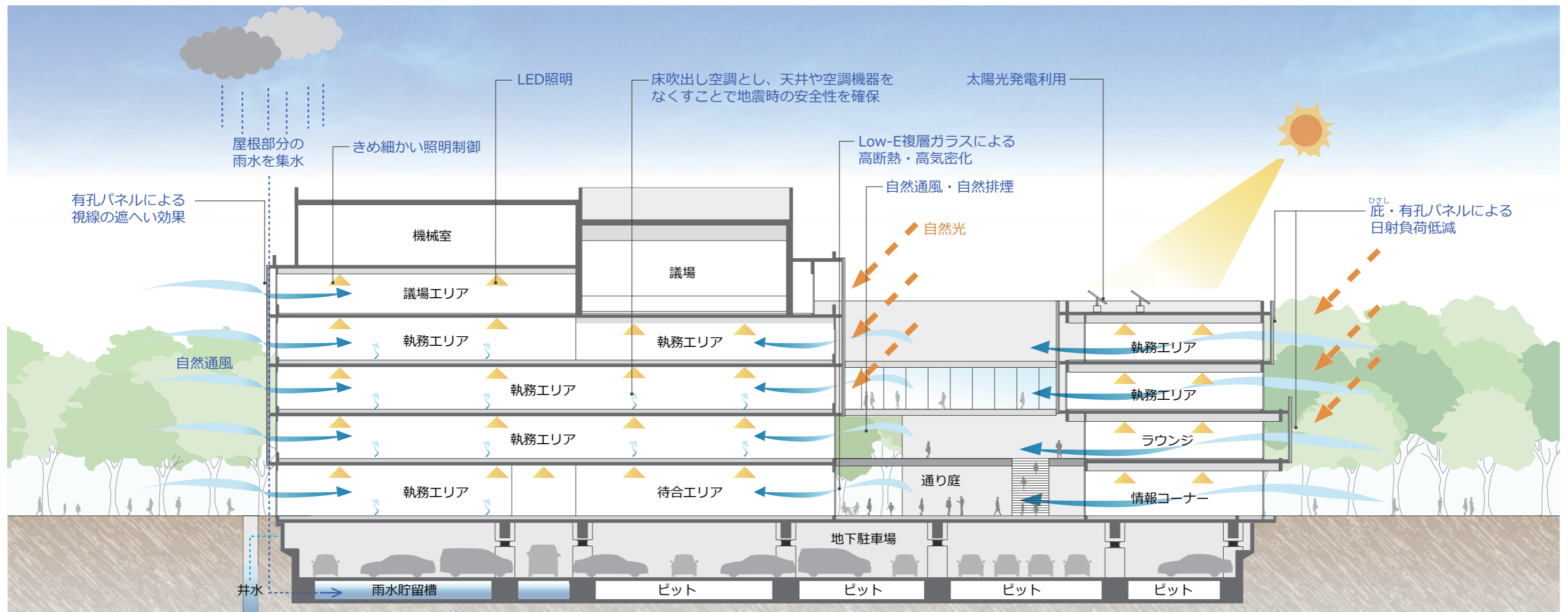
- ・「はなれ」の屋上に太陽光発電設備を計画します。停電や災害時には自立運転により日中の利用を可能とします。
- ・地下駐車場下部のピットに雨水貯留槽を設置し、屋根部分より集水した雨水を雑用水として利用します。
- ・ろ過設備を設置し、井水の利用を計画します。平常時は飲料用として利用することで、省資源化に寄与し、災害時にも有効に活用できる計画とします。

□自然エネルギーの効率的な活用

- ・敷地内に風の通り道をつくり、建物の自然通風を促します。
- ・執務エリアや待合スペースに庇^{ひさし}や有孔パネルによって適度にコントロールした自然光を取り込みます。
- ・地上部を積極的に緑化するとともに、屋上の一部についても緑化し、ヒートアイランド現象の抑制に寄与します。

□高効率機器の採用

- ・全館LED照明で計画し、明るさと視環境に配慮した計画とします。照明制御盤により、中央での照明管理を可能とします。また、人感センサーを用いた細やかな点滅制御により省エネルギー化を図ります。
- ・ガラスについては、Low-E^{※4} 複層ガラスによる高断熱と高气密化で空調負荷を低減します。



※1: CASBEE: 設計段階における省エネルギーや環境負荷の少ない資機材の仕様といった環境配慮はもとより、室内の快適性や景観への配慮なども含めた建物の品質を総合的に評価するシステム

※2: スケルトンインフィル: 建物を構造体(スケルトン)と内装・設備(インフィル)に分けて設計する考え方。内装や設備機器の交換が行いやすいメリットがある。

※3: BEMS: 室内環境とエネルギー性能の最適化を図るビル管理システム。ITを利用して照明や空調を制御して最適なエネルギー管理を行う。

※4: Low-E 複層ガラス: 複層ガラスのうち、その内面に特殊な金属膜を設け、断熱性・気密性を高めたガラス

断面イメージ図

ユニバーサルデザイン・昇降機計画

ユニバーサルデザイン計画の考え方

- ・誰もが利用しやすく快適な庁舎とするため、「府中市ユニバーサルデザインの5つの視点」に基づいたユニバーサルデザインの実現を目指します。
- ・障害者団体との対話を通じて、誘導ブロックや触知案内板の配置を定めるなどより現実的に使いやすい施設計画とします。

□ゆとりのある通路幅

- ・敷地内の通路や庁舎内の廊下は極力段差のない構造にするとともに、歩行者と車椅子利用者に配慮したゆとりのある幅員を確保します。
- ・主要な来庁者動線となる「通り庭」に面して出入口を設け、庁舎内へスムーズにアクセスできる計画とします。

□目的の窓口が分かりやすい庁舎

- ・各課の待合と執務室の間をオープンな空間とし、来庁者にとって見通しやすく、分かりやすい計画とします。
- ・総合案内はロビーの視認しやすい位置に設け、サイン計画を含めて初めての来庁者がスムーズに目的の場所へ移動できるように配慮します。

□バリアフリー対応のエレベーター

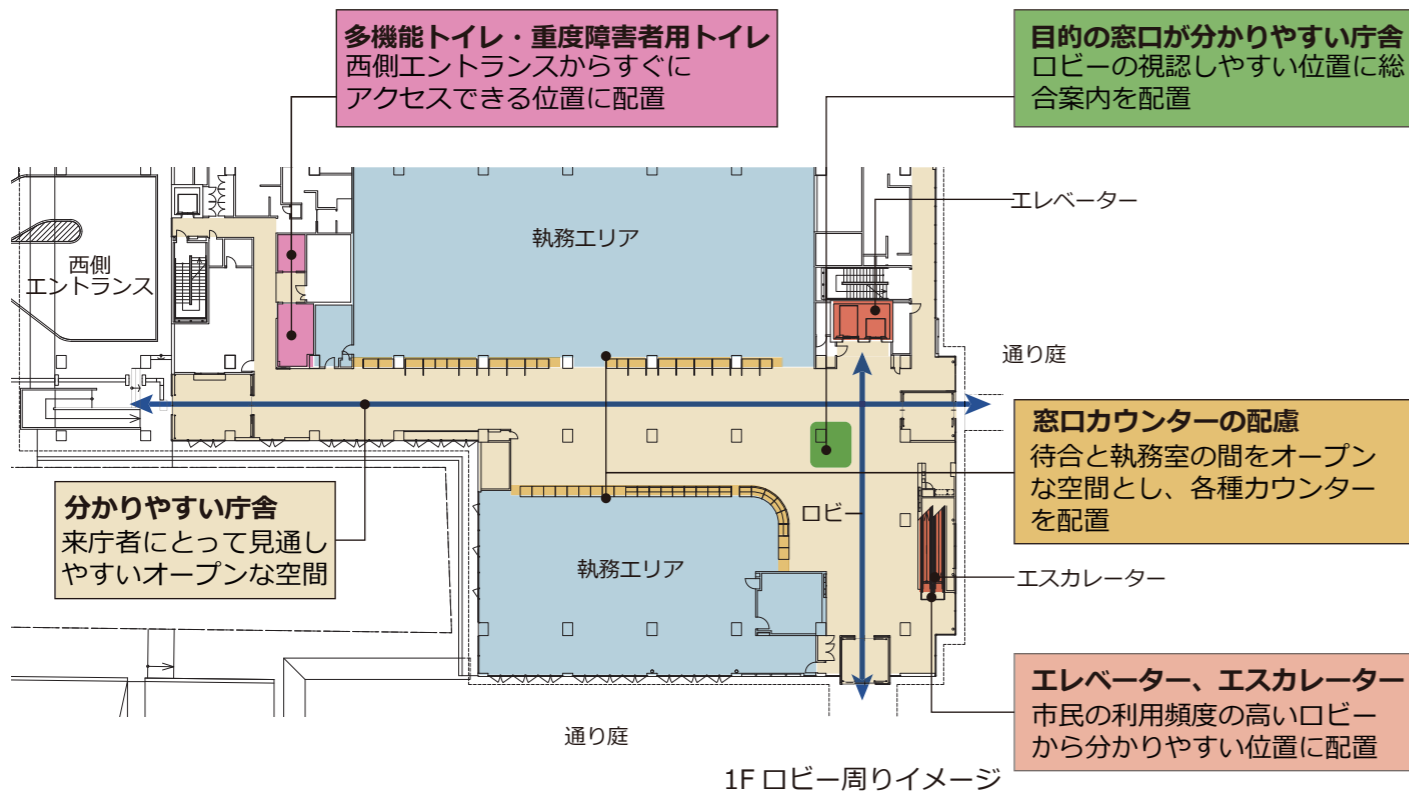
- ・かごの広さは、車椅子利用者と介護者が同時に入ることが可能な計画とし、十分な広さを確保します。（その他昇降機計画参照）

□1階と2階を結ぶエスカレーター

- ・市民の利用頻度の高い1階と2階を結ぶエスカレーターは、ロビーから分かりやすい位置に計画します。

□障害者等用駐車区画・おもいやり駐車区画

- ・地下駐車場の「おもや」「はなれ」の各棟にアクセスできるエレベーターに近接して障害者等用駐車区画を整備し、安全な動線を計画します。障害者等用駐車区画とは別におもいやり駐車区画を設け、高齢者や妊産婦の方も利用しやすい計画とします。



□音声標識ガイドシステムの導入

- ・出入口付近に音声標識ガイドを設置し、視覚障害者への建物案内を行います。出入口に近づくと手持ちのシグナルエイドから音響・音声案内を受け取ることができます。

□磁気ループの設置

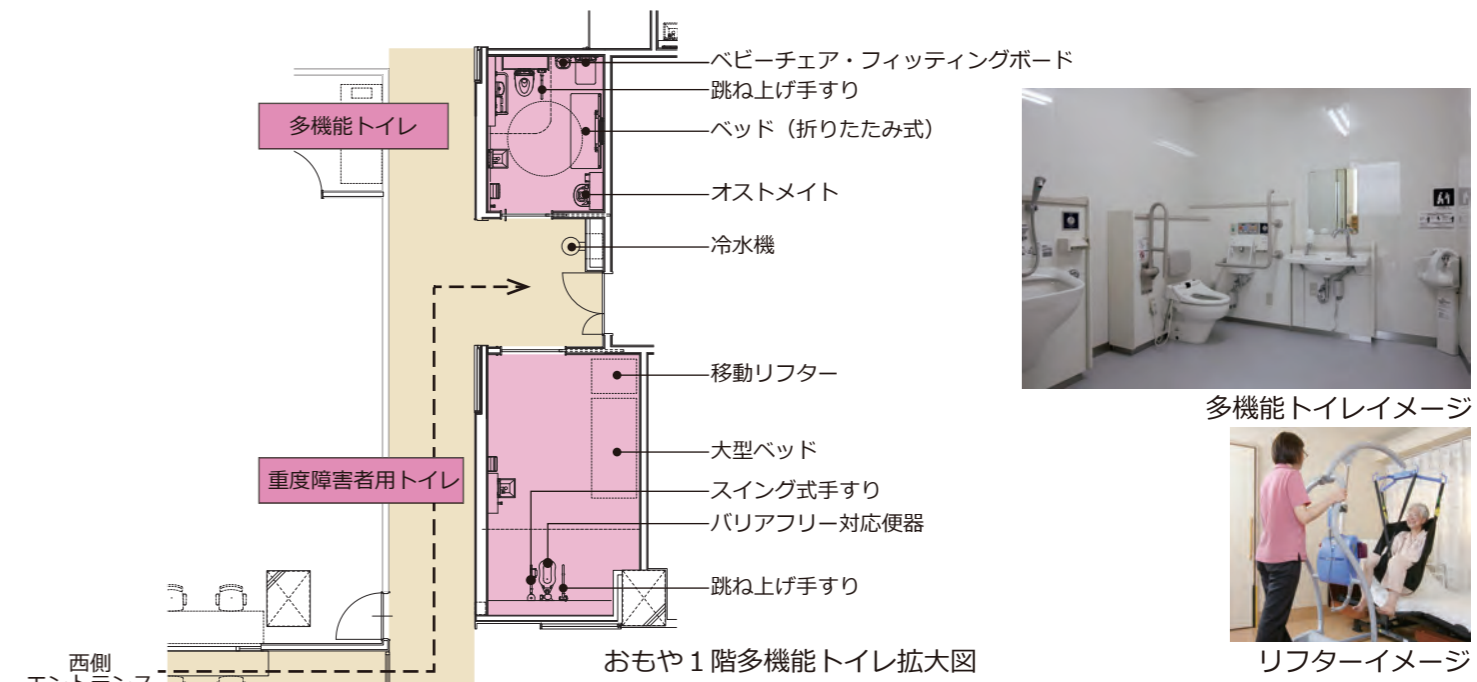
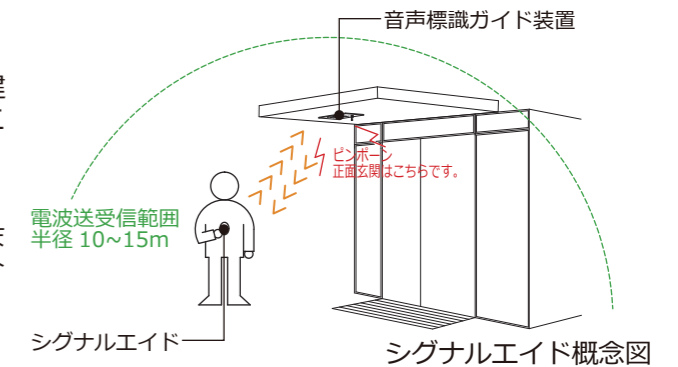
- ・聴覚障害者を支援するため、議場に磁気ループを設置します。音声磁場を発生させることで、補聴器や人工内耳を介して目的の音・声だけを正確に聴き取ることができます。

□多機能トイレ

- ・各階に誰もが利用できる多機能トイレを設置します。
- ・フロアごとの利用者層を考慮し、多様な要求に対応できるトイレ計画とします。1階には介助に必要な十分なスペース（約15㎡）と大型ベッドやリフターを備えた、重度障害者用トイレを設置します。

□授乳室・キッズコーナー

- ・授乳室及びキッズコーナーを適所に設け、子ども連れの利用者も安心して利用できる計画とします。



昇降機計画の考え方

- ・来庁者にとって分かりやすく、職員が利用しやすい昇降機計画とします。
- ・26人用を2基、15人用を3基計画し、いずれもバリアフリーに適合した機器を選定します。また、エスカレーターを2基設け、利用しやすい位置に計画します。

□エレベーター

「おもや」3基（26人用：1基・15人用：2基）「はなれ」2基（26人用：1基・15人用：1基）

- ・26人乗りのエレベーターを2基設置し、車椅子利用者だけでなく、担架やストレッチャーに対応するとともに、点字表示や電光表示、音声案内設備を設置します。

□エスカレーター

「おもや」2基（上り1基、下り1基）

- ・利用者の多い「おもや」1～2階間にエスカレーターを設置します。幅600mmのタイプを選定し、追越し等を未然に防ぎ、利用者の安全に配慮します。



※1: 5つの視点:「府中市福祉のまちづくりユニバーサルデザインガイドライン」に示された、福祉のまちづくりを進めるための5つの視点(公平・簡単・安全・機能・快適)を指す。